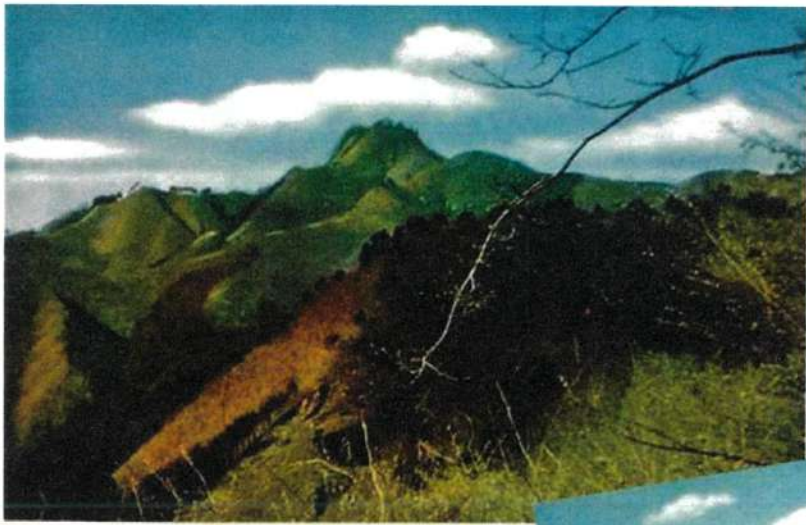


奥武蔵

464

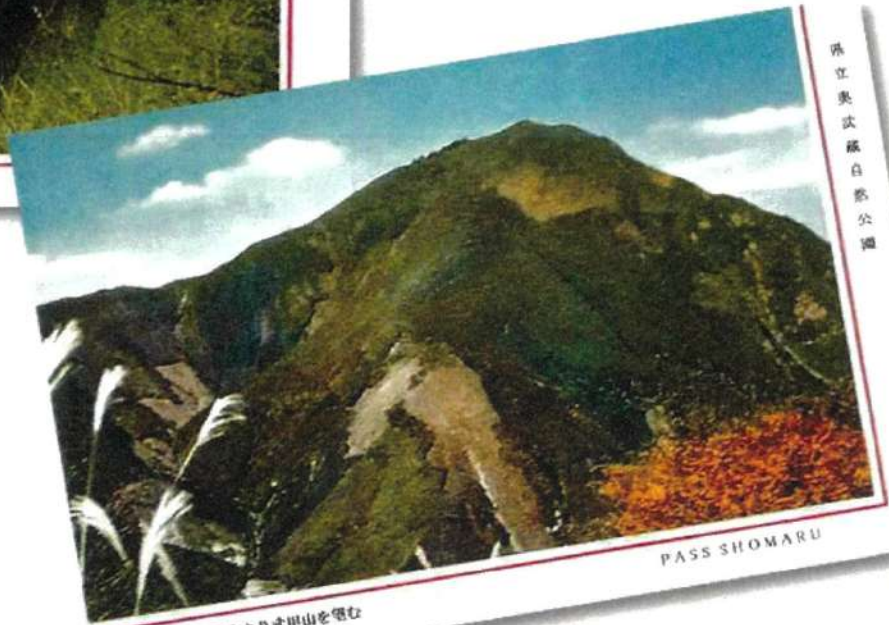
奥武蔵研究会

2026年(令和8年)4月



国立奥武蔵自然公園

正丸峠・ガーデンハウスより伊豆ヶ岳を遠望す



国立奥武蔵自然公園

正丸峠・頂上より武甲山を望む

PASS SHOMARU

昭和のレトロ絵葉書に見る武甲山と伊豆ヶ岳

変貌していく奥武蔵・秩父の山々と日本文化

小泉 重光

春爛漫、一昔前までは和やかな春の訪れに、どこか落ち着かない気分になったものでした。けれども、周知の通り現在では花粉症に悩まされる季節の到来と捉える方も少なくないのではないのでしょうか。奥武蔵や秩父といった丘陵や低山の地域では、かつては耕作地として利用されていた土地も、戦後になると大部分が植林されて将来の財産として期待されていました。しかし、集落の過疎化とともに林業も衰退し、個人の努力ではどうにもならなくなってしまっているのが現状です。人々の生活とともにあった美しい風景を、取り戻すことは最早不可能かも知れません。ともあれ、会員の皆様には変貌していく奥武蔵・秩父の証言者になっていただきたいと思っています。さて、その林業が衰退して放置された山がどうなったかというところ、人間の集落と動物たちの生息域が接近して困り果てている人もかなりいます。昨秋、テレビ等では熊出没のニュースが連日のように報じられていましたが、実際には各市町村の有線放送により熊出没の情報を常に流していますし、実の落ちない植林地帯に囲まれた集落ではさほど驚く話ではないのです。むしろ猪や鹿といった従来からの害獣に加え、アライグマやハクビシンといった外来種も増えてしまいました。半世紀前まで時間を巻き戻すと、里山でこうした動物たちが出没することは殆んど稀でした。日中は人々が畑仕事をしていましたし、恐らく餌の豊富な山奥でノンビリ暮らしていたからでしょう。ですが、個体数の爆発的な増加により、年々彼らの生存競争も厳しくなっているように思います。私たちの暮らしぶりもどこか窮屈になったり、何かに脅えたりしている感じも昨今、つくづく自然界と人間社会は比例するものなのだと感じています。

奥武蔵の山々に林道が増える一方で、今日も寸断された旧道が鹿たちに荒らされて消滅していきます。それが変貌していく日本文化に通じるように思うのは、果たして私だけなのでしょうか。

目次 第464号 令和8年4月

変貌していく奥武蔵・秩父の山々と日本文化	小泉 重光	表2
多峯主山異聞	小泉 重光	1
山地から低山帯へと	坂口 由加里	5
出沒範圍を拡大させるニホンカモシカ	吉田 美知子	6
小川町の超低山	中塚 智恵美	7
寒沢山と和具山の山名表示に疑問		
雁坂峠越え		
2025年7月12日		
秩父御岳山	中塚 智恵美	9
美の山	星野 克典	10
今熊山から金剛の滝	梅津 準士	10
忘年山行		
「多峯主山から神久山」	村木 悦子	11
秩父市街での初詣と散策	齊藤 慶広	12
新年初詣山行	大川 満代	13
川越散策	岡野 守	13
小川御岳山	中塚 智恵美	14
赤城山	高橋 澄夫	15
赤ポッコ	村木 悦子	16
山行計画	会務報告	19
集會案内	委員会構成	21
	奥武蔵情報	21

奥武蔵 第 464 号
令和 8 年 4 月 1 日発行

印刷所

株
ヌー
ベル
社

成
川
茂
雄

加
藤
恒
彦

小
泉
重
光

編集者

〒 175-0092
東京都板橋区赤塚 7-18-7

発行所

奥武蔵研究会

発行者

小
泉
重
光